防水工事の歴史的資料 継承へ一般社団が発足

資料館の早期実現へ賛同募る

狙いを説明する田中代表

防水工事に関する歴史的な資料を保存する資料館設置を目指し、一般社団法人「防水アーカイブズ資料館」が発足した。防水関連の文書や材料、人材に関するデータなどを幅広く収集し、次世代に引き継ぐ狙い。発起人代表は、東京工業大学名誉教授の田中享二氏が務める。賛同者を広く募り、早期実現につなげる。

東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催中の第27回R&R建築再生展2023（組織委員会主催）の会場内で、5月31日に設立報告会を開いた。田中代表は「防水は100年を超えた分野で、歴史的価値がある。防水遺産を散逸させてはいけない。将来世代への貴重なプレゼントになる」と重要性を訴えた。

文書では設計図面や材料カタログ、防水工事記録、各種マニュアル、仕様書、論文などを対象に想定。防水施工会社の社員や職人などを含め直接的、間接的に防水に関わった人に関する資料も集める。既に約300人分を登録している。現時点で未着手だが、防水材料やサンプル、施工機械・施工道具など防水に関する物も対象としていく。

日本建築学会（竹内徹会長）の防水工事運営委員会内に、2013年に防水アーカイブズワーキンググループが発足し、文書や文献の収集などを進めていた。現在は日本防水材料協会（高城哲也会長）の会議室に一時保管しているが、安定的な受け皿として資料館が必要としており、関東近辺での設置に向け準備する。

発起人として全国防水工事業協会の高山宏前会長や、日新工業の相臺公豊代表取締役会長、田島ルーフィングの田島常雄代表取締役会長らが参画。「オール防水で支えていきたい」（田中代表）としている。